

ふるさとの祭

金刀比羅神社の祭礼

松尾町八田にある金刀比羅神社。神社の北方、横芝に坂田池があり、その更に北に坂田城址の山が続く。この坂田城は井田因幡守友胤の居城となり、一説にはこの井田因幡守が讃岐國金刀比羅神社を信仰し、現在の地に金刀比羅神社を建てられたという。その為か、この神社は珍しく社殿が北西を向いて鎮座しており、その方角には坂田城址が存在する。金刀比羅神社のご祭神はおおなむちのみこと大己貴命（別名:大国主命）、おおひるめのみこと大日靈命（別名:天照大神）、金刀比羅神社の大己貴命は八田地区全域の氏神様で総鎮守。

例大祭は10月10日で3年に1度御神輿が出る。昨年は震災の影響で中止となり、今年に御神輿渡御となった。担ぎ手も仕事を持っている人が多くなった為、10月6日(土)に御神輿の渡御、例大祭が10日(水)と分かれた。

日程

- 10月6日(土) 発幸祭 (午前8時半頃)
神輿渡御 八田地区を練り歩く
還幸祭 (午後5時頃)
※巫女舞が昼に共同館で披露される
- 10日(水) 例大祭 多くの出店がでて賑やかである



神輿渡御



巫女舞

地域を結ぶ伝統

「まつり」という言葉は「祀る」の名詞形で、本来は神を祀ること、またはその儀式を指すものである。

「祭」のその目的や意義は、「五穀豊穡」、「商売繁盛」、「疫病退散」、「無病息災」、「家内安全」などを祈願、厄除祈念として行われるものなど様々である。

地域住民総勢で神輿を担ぎ、山車を引き地域を練り歩いた。

今は、各地域で行われていた「祭」も市街地の衰退とともに、後継者の不足(若者や子どもたちの減少)等が課題となり、地域住民のみでの開催が難しくなってきた。

忘れられつつある地域の結びつきの一つである「祭」を通じて地域の伝統文化を知り後世に伝えていこう。



お龍頭の舞

旗織り

白幡八幡神社の祭礼

源頼朝(33歳)が伊豆から房総に逃れて、再起を図るべく関東武者たちに打倒平家を説いていた途中(1180年8月29日以降)、源氏の守り神、菅田別尊を祀る八幡神社に寄ったとある。

この時頼朝は、白旗願書、矢を添えて「源氏の再興、武運長久」を祈ったという。

勝利した頼朝は、お礼参りとして大願成就の祭典を盛大に行い、これが現在まで続く大祭として伝えられている。時を経て家康が東金に寄られた時に、この神事を聞き、頼朝にならい東金御殿の竹林の竹を旗竿として寄進し、村人は旗竿に新しく織った旗を吊るし境内に立ち上げたのである。

白い布を織り旗竿に翻る様は、まさに時代を紡ぐ伝統儀式として価値がある。

日程

10月20日(土) 旗織り初日(麻さき、麻よりいれ)・玉串渡御 / 21日(日) お竹取り /

27日(土) 旗織り最終、曙祭り(午前6時～) / 28日(日) お旗吊るし(午前11時頃)、お龍頭の舞・玉串還御

秋の祭に行こう

地元のお祭りや、市内のお祭りなど調べて出かけてみませんか。秋の一日を楽しみましょう。

10月の祭

- ① 金刀比羅神社例大祭 (松尾町八田地区)
- ② 白幡八幡神社の祭礼 (白幡地区)
- ③ 椎崎八幡神社の祭礼 (椎崎地区)
- ④ 埴谷日吉神社の祭礼 (埴谷地区)
- ⑤ 成東八幡神社祭礼 (成東地区)
- ⑥ 駒形神社の例祭 (富田地区)
- ⑦ 森賀茂神社の祭礼 (森地区)
- ⑧ 大宮神社の秋季祭 (松尾町折戸地区)

◎ 白幡八幡神社祭礼(10月28日)時、甘酒のサービスがあります。

(広報市民編集準備委員)

